



世界農業遺産

にし阿波の傾斜地農耕システム

をめざす

GIAHS
GLOBALLY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS



日本農業遺産認定記念シンポジウム

～傾斜地が育む野菜の魅力～

2018. **2/22** 木 13:30～ (受付: 13:00～)

会場: 脇町劇場 オデオン座
参加費: 無料

13:00～受付

【第1部】

13:30～13:45 ごあいさつ 兼西 茂 (徳島剣山世界農業遺産推進協議会会長、つるぎ町長)

13:45～14:00 概要説明 「にし阿波の傾斜地農耕システムについて」

14:00～14:30 基調講演①
「傾斜地における野菜生産～西日本農業研究センターにおける取り組み」

川嶋 浩樹 (農研機構 西日本農業研究センター 傾斜地野菜生産グループ長)

14:30～15:00 基調講演②
「にし阿波における野菜産地と栽培技術について」

高木 一文 (徳島県立農林水産総合技術支援センター 上席研究員)

15:00～15:10 休憩

【第2部】

15:10～15:25 「にし阿波・食と農の名人」認定式

15:25～16:15 パネルトーク

パネリスト: 講演者全員、竹中 均 (はなみち農園 代表)

小川 満大 (阿波食ミュージアム 店長)

【主催】徳島剣山世界農業遺産推進協議会

【共催】徳島県西部総合農政局 農林水産部

世界農業遺産とは、人類の遺産として保存すべき重要な農業システムを国連食糧農業機関 (FAO) が認定する取り組みです。にし阿波の山間部で暮らす人びとは、急傾斜地という厳しい環境で農業を営むために、様々な知恵や技術を持ってきました。また、こうした知恵や技術に支えられた土地利用によって、美しい農村景観や生物多様性を育んできました。平成29年3月、『にし阿波の傾斜地農耕システム』は、農林水産省の定める日本農業遺産の認定を受けました。近年、産直市の売上向上など中山間の野菜の魅力について見直されてきている中、傾斜地で育まれた野菜を研究的側面から見つめ直し、日本農業遺産を活かした栽培・販売促進の契機とすることを目的とします。



アクセス

脇町劇場 オデオン座

徳島県美馬市脇町大字猪尻字西分140-1

【公共交通機関】JR徳島線 穴吹駅下車 タクシーで約7分

【車】・自動車道利用: 徳島自動車道 脇町IC下車後、約7分

→ 一般道利用: 国道192号沿い 穴吹橋を渡って約5分

※駐車場は「道の駅 翠のつた (美馬市脇町大字脇町55)」が「脇町市民サービスセンター (美馬市脇町大字脇町1303-3)」をご利用ください。

お問い合わせ

徳島県美馬郡つるぎ町貞光字東浦1-3

徳島剣山世界農業遺産推進協議会 (つるぎ町役場商工観光課内)

TEL: 0883-62-3111 (代) FAX: 0883-62-4944

E-mail: syoukou@tsurugi-i.tokushima.jp

日本農業遺産認定記念シンポジウム

～傾斜地が育む野菜の魅力～

2018. **2/22** 木 13:30～ (受付: 13:00～)

会場: 脇町劇場 オデオン座

徳島県美馬市脇町大字猪尻字西分140-1

参加費: 無料

古くは“ソラ”とよばれたにし阿波の山間部で暮らす人びとは、ときには斜度30度以上にもなる急傾斜地という厳しい環境で農業を営むために、驚くほど理にかなった工夫を凝らしてきました。地域の人々が培ってきた農業や土地利用にかかわるユニークな知識・技術・制度・価値観や信仰の体系は、この地域特有の美しい景観や多種多様な動植物を育ててきました。

平成29年3月、『にし阿波の傾斜地農耕システム』は、農林水産省の定める日本農業遺産の認定を受けました。近年、産直市の売上向上など中山間の野菜の魅力について見直されてきている中、傾斜地で育まれた野菜を研究的側面から見つめ直し、日本農業遺産を活かした栽培・販売促進の契機とすることを目的とします。



川嶋 浩樹

農林水産省四国農業試験場(当時)入省後、野菜・茶業研究所を経て、西日本農業研究センターで現職。中山間地域における施設園芸研究等、施設園芸に関わる栽培技術開発、環境制御に関わる技術開発に従事。傾斜畑での野菜生産研究にも携わる。農林水産省産学連携支援コーディネーター、燃油価格高騰緊急対策審査委員などを務める。

(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 西日本農業研究センター 傾斜地園芸研究領域 傾斜地野菜生産グループ長)



高木 一文

脇町・藍住農業改良普及所、農業大学校農業研究所等において野菜・山菜・茶・雑穀等の栽培指導、流通、生産奨励行政、教育、栽培技術研究に従事。にし阿波地域の野菜にも詳しく、現在、農林水産総合技術支援センターでタラノメ、山フキ、葉草の栽培研究を担当している。

(徳島県立農林水産総合技術支援センター 農産園芸研究課 野菜・花き担当 上席研究員)



竹中 均

美馬市で農地を積極的に借り受け、水稻・そば・麦・野菜を栽培。地域の農地の保全に貢献している。6次産業化にも取り組んでおり、平成30年1月末には加工販売をメインとした法人を立ち上げる。

(はなみち農園 代表)



小川 満大

板野町生まれ在住。東京の御三家ホテル、老舗料亭などのサービス業に5年間、M&A全盛期の金融機関業務に5年間従事する。平成21年竹内園芸に入社。平成27年石井町高原に食堂を併設した産直市「阿波食ミュージアム」を開業。「食と農」を通して人々と地域を元気にする事業の開発、運営を主な業務とする。平成30年設置の美馬市道の駅「みまの里」の指定管理者。

(阿波食ミュージアム 店長)



GLOBALLY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS
世界農業遺産
GIAHS